



WATERRAS

人情・情熱を引き継ぎ
大きなコミュニティをかくむ

FREE AWAJI BOOK 8890

フリーアワジブック 8890
2017.09.01 発行

発行：一般社団法人読書エブリマーズネット
〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町2-105 フラタスアワジビル1311
Tel 03-3526-9883 Fax 03-3526-0090
www.waterras.com



編集：グッドモーニング株式会社 水代 優
www.goodmornings.co.jp

¥0

2017 September No.19

Call me FAB!

FREE AWAJI BOOK 8890

Reaching for the Sky,
and Beyond



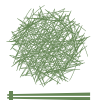
特集：神田発、宇宙へのまなざし

10/22開催/
次回の1899
ティーカレッジは

ブレンド和紅茶と
秋のスイーツ。



毎回、講師をお招きし、楽しみながらお茶を学ぶ「1899ティーカレッジ」。
第15回はオリジナルブレンドで愉しむ和紅茶と秋のスイーツプレートの
開催を予定しております。詳しくは近日中にお店のホームページ等で
告知いたしますのでどうぞお楽しみに！



GREEN TEA
RESTAURANT
1899
OCHANOMIZU

GREEN TEA RESTAURANT 1899 OCHANOMIZU

101-0062 東京都千代田区神田駿河台 3-4
TEL 03-3251-1150 FAX 03-3251-0270 <http://1899.jp/>

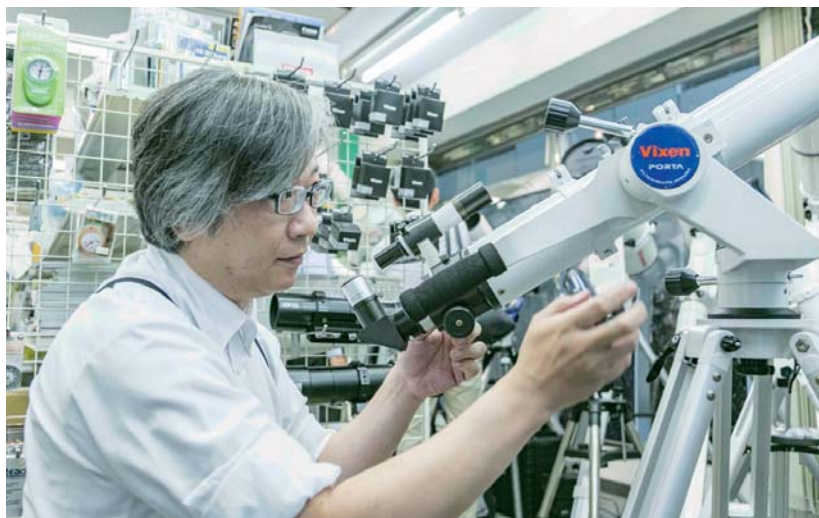
Reaching for the Sky, and Beyond

あまりに遠く、
文字どおり手の届かない、
空のそのまた向こうのこと。
見たい。
知りたい。
近づきたい。
少年さながら、
果てしない興味と情熱。



Text Mari Kubota
Photo Atsushi Ishihara

天体観測を後押ししてくれる、頼もしい存在。



子どもの頃から好きだった天体望遠鏡の並ぶ店内。商品を扱う手先にも愛情がこもる。

神田須田町の交差点近く、ビルの1階には大型の天体望遠鏡がびっしりと並ぶ店舗がある。光学製品を取り扱う、ネイチャーショップ KYOEI 東京店だ。昭和 34 年 (1959) に大阪で創業、昭和 59 年 (1984) に東京店をオープンした。「約76年周期で地球に接近するハレー彗星に日本中が湧いていた年でしたね」とそう説明してくれたのは、店長の薦谷忍さん。薦谷さんは高校で天文部に所属する、ザ・天文少年で、当時住んでいた飯田橋から、小川町にあった旧店舗によく通っていたそう。そしてこの会社に入社して 24 年になるという。

今から数十年前、小中学校の入学祝には天体望遠鏡が定番だったが、時代は変わってしまった。客層の年齢は比較的高め。子どもの小遣いでは買うことができなかったが大人に

なり、夢を叶えるために望遠鏡を買いに来る。そんな人もいるという。「天文好きな高校生や大学生も来ますよ。今はネットでも買えるようになったけれど、ネットの情報だけでは分かりづらいし、10人いれば10通りのリクエストがある。細かなアドバイスや、後押しが欲しくて来店する人が多いですね。」と薦谷さん。ここには、量販店などには置いていない製品もあり、軽自動車と同じくらいの価格のものまであるなど、幅広い品ぞろえが自慢だ。「時代ともに望遠鏡も進化して、昔は見たいものを手動で探していたのですが、20年くらい前からは星を自動的に探してくれるコンピューターが内蔵され、お目当ての星をデジタルカメラで撮影する楽しみ方になってきました。100～150倍の倍率のものなら、星を見ながら地球

Reaching for the Sky, and Beyond



奥のカウンターでは「観たい星」やご予算に合わせ、初心者にもわかりやすく丁寧にサポート。



の自転を体感できますよ」。天体初心者なら、月のクレーターや、木星の縞模様、土星の輪を観察するのがオススメ。薦谷さん自身は、望遠鏡で薄っすら見える星雲・星団を観測するのが好きなんだそう。「木星や土星よりもはるかに遠くにあるので、スケール感が違うんです。都心部でも街明かりを避けると星が見えるそうなので、天体観測に挑戦してみては。



天体望遠鏡を手に。笑みがこぼれる観測ポーズ！

Nature Shop KYOEI・東京店

千代田区神田須田町1-5村山ビル1F

☎ 03-3526-3366

☎ 月～土、祝日営業10:00～19:00 ☎ 日曜

未来への入り口は、神田にあった！ 私たちの生活を支える宇宙とは？

JR 御茶ノ水駅のすぐ目の前、ソラシティプラザ内に「宇宙航空研究開発機構」(JAXA・ジャクサ)の東京事務所があるのをご存知だろうか。「宙」は“そら”を意味することから、きっと深い関係が……。「残念ながら、関連はないんですよ」と広報部の藤本信義さん、荒川紀代さん。どんな活動を行っているのかを伺った。「2003 年、それまで別々に活動していた宇宙に関わる3つの組織、東京大学宇宙研究所、宇宙開発事業団、航空宇宙技術研究所が統合され、JAXA となりました。国立研究開発法人なので、国の宇宙基本計画に従って宇宙開発を進めています」と荒川さん。北は北海道の大樹航空宇宙実験場から、南は沖縄の宇宙通信所まで多くの施設がある。「筑波宇宙センターや相模原キャンパスと行き来することもあるので、東京メトロ・新御茶ノ水駅や JR 秋葉原駅にも近い東京事務所は、利便性が高いですね」と藤本さんは話す。宇宙に関する事業と聞くと、私たちの生活からは遠い存在に感じてしまう。しかし、位置情報を取得する GPS 機能はアメリカの衛星測位システム、毎日の天気予報は気象衛星によるものだ。「東日本大震災時に地面がどう動いたかを観測しました。人工衛星は地上のインフラに左右されずに継続的な観測ができるのが強み。地震予測はできませんが、そのデータを生かしてハザードマップを作ることができます」と荒川さんは説明する。私たちの日常を支えてくれる宇宙での事業をさらに身近に感じる方法があると、藤本さんが教えてくれた。条件がそろえば、宇宙空間「きぼう」と国際宇宙ステーションを神田からも見るができるということの

だ。「1 等星と同じ金星ぐらいの明るさの光が横切る姿が見えます。“現代の流れ星”ですね」。その目視予想情報は JAXA のサイトから取得可能とのこと。東京事務所には、宇宙事業を紹介する来客用の展示があり、見ているだけでも宇宙を身近に感じられる。御茶ノ水駅の目の前にあった、宇宙との接点。老舗の街、神田には、未来ともつながる奥深さがあった。



荒川さんは、神田に拠点を設けて5年目の東京事務所日々奔走している。



お話を伺った主任の藤本さん。その取り組みのスケールの大きさには、聞いている側の夢も膨らむばかり。



親指サイズの毛玉の惑星ほか、宇宙をモチーフに開発・商品化されたもの。

Reaching for the Sky, and Beyond



国立研究開発法人
宇宙航空研究開発機構 (JAXA)

千代田区神田駿河台4-6 御茶ノ水ソラシティ
www.jaxa.jp

HANG OUT MAP

ぶらぶらマップ

A 2017年11月上旬～2018年2月中旬 solacity winter illuminations

空と緑が広がる駅前広場が幻想的なシャンパンゴールドのイルミネーションで彩られます。この時期だけの幻想的な冬の風物詩をお楽しみください。

・入場無料 ・会場 御茶ノ水ソラシティ B1F・1F



●明倫館

*店は編集部が独自にセレクトしました。

illustration Mougi Kazuya

B 9月16日(土)～10月9日(月・祝) ポコラート全国公募展 vol.7

障がいのある人、ない人、アーティストによる全国公募展の第7回。「作品部門」128点、「語り」や「身体表現」などの「形にならない表現部門」6企画の入選者展です。

・場所 Arts Chiyoda3331 ・火曜日休館

A
Sola City
●JAXA

AWAJICHO

宇宙服ミュージアム
(店舗なし。WEBサイトのみ。)

<http://www.jsforum.or.jp/spacemuseum/>

C 9月24日(日) Music Voyage 朝ヨガ Reset and Re-start

2017年後半のリセット & リスタート。ヨガインストラクター Maiko さんによる、自分自身の軸を感じ「体幹/コアワーク」を多く取り入れたフロースタイルのヨガを行います。DJ Miya のセレクトする音楽もお楽しみください。

・時間 10:00～11:00 (ヨガ後にはランチ付)
・場所 ワテラストワー2F cafe104.5
・入場無料



KNOCK! KNOCK!

かんだ やぶそば

設計 _ 黒木 博臣氏 (株式会社水澤工務店)



緑も含めその景観全体が、利用者・通行人を問わず、皆の目を楽しませている。実は木造ではなく鉄骨造というから驚き。

神田の建築物の数々を訪ねるこのコーナー、今回も建築設計事務所・オンデザインから湯浅友絵 (ゆあさ とめい) さんが登場、「かんだ やぶそば」について専門家の目線からその魅力を語って頂く。

古き良き江戸・東京の風情を色濃く残す須田町老舗街。その代表的なお店のひとつ「やぶそば」の現店舗は、2013年の火災・焼失を経て翌年に新たに建て直されたもの。単にかつてと変わらぬ美しい姿を取り戻したというだけにとどまらず、地域との共生、またより良い店のあり方を追求める未来志向の姿勢が随所に反映されたものになっている。

数寄屋造風の洋風建築で、一階席の雰囲気は古くからの利用客にとってなじみ深いものとなっている一方、新築に当たっては二階席が設けられビジネス用途にも対応。またエレベーターや喫煙スペースを設けるなどバリアフリーや利用者目線での使い勝手の向上が図られている。代表の堀田康彦さんが設計者と共に20ヶ月にわたり知恵をふり絞り仕上げたその設計には「もとの良さを残すことと現代的であることを両立させるためのバランスの見極め方が素敵です。また細部にわたり工夫が凝らされている点からも、真摯な思いで利用客に向き合う姿勢がとても伝わってきます」と湯浅さん。

またお店の外の景観美にも注目。竹を含めた植栽や入り口右手にそびえ立つ大きな木といった豊かな緑は、見た目にも豊かな環境での食体験はもちろん、店の前を通る通行者、さらには広く地域にも、心の安らぎを提供することにつながっている。「こんなにも緑が街に対して開かれているなんて。単にお店の再興だけを考えていては絶対に実現できないことですね。長きに渡ってこの地で歩んできたやぶそばさんが、街と共に未来を歩んでいくことを心から大切にしていることが伺えます」。



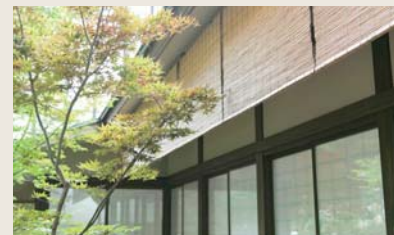
手前の石垣はちょうど人が腰掛けられる高さの設計。



一階席はこの大広間。中央奥のお会計場は客席も調理場も見通せる合理的な造り。



今回店舗をご紹介いただいた代表の堀田さん (左) と オンデザイン湯浅さん (右)。



この視覚美。紅葉の時期もさぞ。

総 評 オンデザイン代表・西田氏から

往年の魅力をそのままに、進取の気風も持ち合わせているからこそ、この造り。古くは江戸にさかのぼる蕎麦文化の代表的な担い手としての気概、また創業以来つねに歩みを共にしてきた淡路町 (かつては「連雀町」) へのひとかたならぬ思いの強さをひしひしと感じます。

株式会社オンデザインパートナーズ/横浜に拠点を置く建築設計事務所。住宅からまちづくりまでを幅広く手掛ける。

明るい音楽と浴衣で彩る、 真夏の神田

Text ワテラスチューデントハウス
大森 叶子
(慶應義塾大学 看護医療学部三年)

ワテラスチューデントハウスに暮らす学生が、神田周辺の魅力を内外に発信するコーナー。今回はワテラス夏祭りに登場した、チンドン屋の参加レポートをお届けする。



チンドン屋の皆さんが奏でる明るい音色と歌を連れて、街を練り歩く。人々の視線が集まる。

学生の街、ビジネスの街である御茶ノ水に、ひときわ目を引く華やかな衣装、どこか懐かしさを感じる鉦や太鼓、サクスの音が響き渡った昼下がり。私はワテラス在住の学生仲間達と共に、夏祭りへの参加を呼びかけるチンドン屋の一行に浴衣姿で加わらせていただき、道行く人々にチラシを配った。時刻はちょうど金曜日のランチタイム。食事をしようとオフィスを出て来たワーカーの皆さんが気づいてくださり、カメラをこちらに向けてくださる方も多くいた。



浴衣が映える、暑い日差し。ワテラス夏祭りのチラシを手に。



学生チームとチンドン屋の皆さん。写真を撮らせて欲しいと呼び止めてくださる通行人もちらほら。

チンドン屋をプロデュースされているボニー・小野さんから、江戸末期より広告の役割を担ってきたチンドン屋は時代の流れと共に衰退してきていると教えていただいたが、実際にやってみると色鮮やかな衣装や非日常的な音でとにかく目立つ。奇抜でありながらカジュアルな雰囲気であるため、チラシも受け取ってもらいやすかった。公の場で注目を浴びることに最初は慣れなかったものの、街を一周し、コースが終わる頃にはチンドン屋の体験を積極的に楽しむことができた。見る人見る人懐かしそうに目を細め、懐かしいメロディに聞き入る。チンドン屋のメロディを演奏する皆さんの楽しそうな様子は、仕事をする方々や家事など頑張っている人々、そして勉強にはげむ私たち学生へ癒しを与えてくれているように感じた。笑顔と音楽で人々を癒すボニーさんは本当にすごいなと感じたし、私も参加している身でありながら、その音楽や楽しそうな声に癒されていた。日本に根付いた広告であると同時に、娯楽として愛される魅力を持っていると気づかされた。チンドン屋が今後も文化として受け継がれていくこと、また何処かで出会えることを楽しみにしたい。



七夕の夏祭り会場では、和の風情たっぷりのステージを満喫。



続々と人が集まるワテラス広場。少し早いけれど、「乾杯！」

夏祭り会場のワテラス広場で、地域の皆さんからは夏祭りに対して「伝統的な文化と、現代の文化がうまく融合できている。」と伺い、非常に嬉しく、誇らしく感じた。今回はわずかな時間ながら、チンドン屋の貴重な体験をすることで様々なことを学ばせていただいた。今後もこの経験を生かし、地域のために貢献していきたいと思う。

WE ARE AAM!

千代田区で暮らすファミリーの「？」を解決！「ワテラス」おやこ茶話会開催レポート

去る6月17日(土)、ワテラスで開催された毎月恒例の人気イベント「ワテラスキッズ」に合わせて新しい試みが行われました。千代田区在住のお母さん・お父さん・これから親になる方を対象とした「おやこ茶話会」です。そのいきさつ、当日の様子などについて、発案者である淡路2丁目町会の佐藤祐子さんにお話を伺いました。



出入り自由、茶話会のはじまり。涼しい室内でゆったり過ごす、土曜の午後。

淡路町2丁目町会 体育部の部長をつとめる佐藤さん。ワテラス界隈のママパパつながりを深め、困ったことは解決し合える場をつくろうと、副部長の早野知加子さんと共に今回の企画を立ち上げました。「マンションの中に住んでいても、町会の入り方や近隣のお店、病院などがわからず悩んでいる方が少なからずいらっしゃるのわかったんです。近くに親戚がいらない人や新しく引っ越してきた人は、情報の交換ができる場があると安

心できますよね。そこで町内会やワテラスに協力をしてもらい、千代田区に在住するお母さん・お父さん・これから親になる方を対象に、誰でも気軽に立ち寄れる『茶話会』を開いてみようと思いました。」

会場はワテラス広場に面したワテラスコモンの1Fサロン。ワテラスキッズで子どもたちが遊んでいる間にママやパパが茶話会でおしゃべりをしに集まるなど、親子でのご参加もあったとか。「チラシなどで呼びかけをしたところ、10組ほど



目の前のワテラス広場に集まってくる子ども達。



子育ての疑問や、町会のこと。知らないことも案外多い。

の親子にご参加いただけました。千代田区児童家庭支援センターと社会福祉協議会の職員の方にも来ていただいて、具体的な悩みをお持ちの場合はすぐに繋げるようにしました。今後も色んなお誘いができるよう、その場で町会への案内をしてご入会いただいたり。これからは、より広く周知をして「ここに行けば誰かに会える」

というような、安心できる場を作っていけたら良いですね。」おやこ茶話会は、今後も機会を見つけて続けていきたいとのこと。

第2回以降については開催が決定次第、ワテラスHPなどでお知らせ致します！

「若い人にもどんどん来てもらえたら。」と佐藤さん。



主 催 一般社団法人淡路エリアマネジメント

協 力 淡路町2丁目町会

千代田区児童家庭支援センター、千代田区社会福祉協議会

AAMでは賛助会員を募集中です。現在のAAMの賛助会員は、一般社団法人千代田区観光協会、株式会社龍名館、第一実業株式会社。今後もAAMは地域交流を盛り上げる活動にご賛同いただける企業、団体と連携しながら、様々な交流の機会を提供していきます。